

CSI委託事業(平成22~24年度)オープンアクセス環境下における同定機能導入のための恒久識別子実証実験
国内の機関リポジトリへの著者識別子登録機能の実装の推進とその課題(金沢大学)
国立情報学研究所オープンアクセスサミット2013 日時:平成25年6月6~7日, 学術総合センター

著者識別子(著者に付与される恒久的一意のID番号)登録機能実装を推進するための事業

- 平成22年度 金沢大学学術情報リポジトリKURAに著者識別子登録機能を実装
識別子用フィールドの設定/NII研究者リゾルバーとのリンク形成/JAIROからの取り込みの実現/遡及登録
- 平成23年度 以下の大学で実証実験
北海道大/長崎大/奈良女子大/関西学院大/大阪市立大

関連ワークショップの開催(2回)

H23.2.17 / H24.2.14

【成果】著者識別子登録の実装モデルの提示

【課題】実装機関を爆発的に増やせなかった。著者識別子付与率の低迷。

(理由)対応にはシステムのバージョンアップとカスタマイズが必要
→技術的障壁(簡単にバージョンアップできない)→費用の発生

費用対効果の問題

■平成24年度 課題と展望を探るためのアンケートの実施

アンケート1 全国212機関に対する調査

- ◎ 識別子の意義・利点については高評価
- △ 国際的な識別子の認知度は低い
- △ 付与対象著者の網羅性は低い
- △ 機関リポジトリの運用に関する技術不足
- △ カスタマイズしてまで実施するメリットがある?
- △ 今後の動向が不明。「様子見」状況

アンケート2 全国研究者に対する調査(N=583)

- ◎ 識別子の意義・利点については高評価
- △ DB検索での著者同定に関して不便さを実感
- △ 管理するIDの増加に対する危惧

今後の展望 各機関で何をIDとして採用すべきか?

国際的な対応など今後の動向はどうか?...

→普及のための情報提供と技術的サポートの必要性